



毒に注意

植物とキノコ

山形県衛生研究所



間違えやすい有毒植物

トリカブト(猛毒)とニリンソウ(食用)



トリカブトの若芽の時期(早春~初夏)に間違えやすい。この時期、ニリンソウは白色の花を咲かせるため、花が咲いている株のみを選ぶとよい。これらは混生することもあるので一株ずつ丁寧に鑑別することが重要である。

<中毒症状>

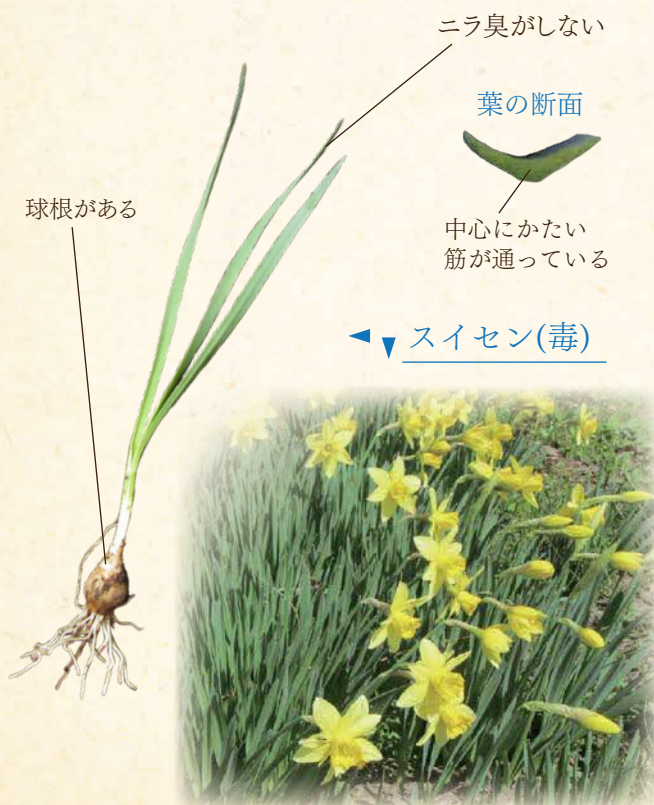
口唇や舌のしびれに始まり、次第に手足のしびれ、嘔吐、腹痛、下痢、不整脈、血圧低下などをおこし、けいれん、呼吸不全に至って死亡する。

<その他の注意点>

ニリンソウのほか、モミジガサ(シドケ)、ヨモギ、ゲンノショウコなどと間違えることもある。



スイセン(毒)とニラ(食用) 【国内中毒件数 No.1】



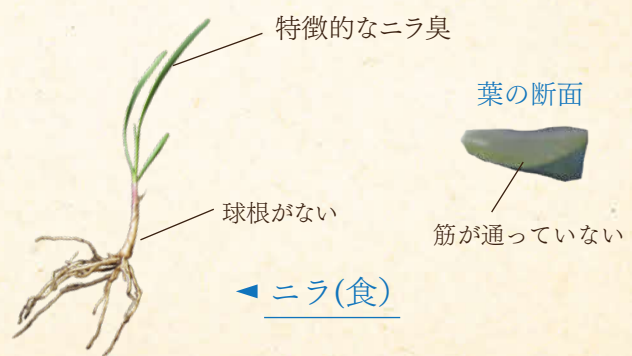
スイセンの花が咲く前の時期に間違えやすい。家庭でニラとスイセンを同時に栽培する際は十分に距離を離して混同しないよう注意する。

<中毒症状>

30分以内の短い潜伏期間の後に悪心、嘔吐、下痢、流涎、発汗、頭痛、昏睡、低体温などを発症する。

<その他の注意点>

ニラのほか、スイセンの球根をタマネギなどと間違えることもある。



バイケイソウ類(毒)とオオバギボウシ(ウルイ)(食用)



芽出しの時期(早春～初夏)に間違えやすい。

<中毒症状>

吐き気、嘔吐、手足のしびれ、呼吸困難、脱力感、めまい、けいれん、血圧低下など。重症の場合は意識不明となり死亡することもある。



ヨウシュヤマゴボウ(毒)



根をゴボウと、実を山ブドウと間違えることがある。生活圏で雑草化しており、見た目が子どもの興味を引きやすいため注意が必要。

<中毒症状>

腹痛、嘔吐、下痢など。まれに延髄に作用し、死亡することもある。

イヌサフラン(猛毒)



球根をニンニクやタマネギ、ジャガイモと、葉をギョウジャニンニクと間違えることがある。

<中毒症状>

嘔吐、下痢、呼吸困難、重症の場合は死亡することもある。有毒植物による死亡事例の半数以上がイヌサフランの誤食による。

チョウセンアサガオ(毒)



根をゴボウと、つぼみをオクラと間違えることがある。

<中毒症状>

口渇、瞳孔散大、意識混濁、心拍促進、興奮、麻痺、頻脈など。重症の場合は意識不明となり死亡することもある。

間違えやすい有毒キノコ

ツキヨタケ(毒) 【国内中毒件数 No.1】



夏から秋にかけてブナの枯れ木に群生する。ムキタケ、ヒラタケ、シイタケなどと間違えやすい。これらは混生することもあるので一個ずつ丁寧に鑑別することが重要である。

<中毒症状>

摂食後数時間で嘔吐、腹痛、下痢などの典型的な消化器系中毒を起こす。重症の場合、けいれん、脱水、アシドーシスショックなどを起こす。

<その他の注意点>

生育環境により色合いや形が大きく異なるため、外観のみで判断するのは危険。

ヒラタケ
ツキヨタケ

混生の様子 ▶



クサウラベニタケ(毒) 【国内中毒件数 No.2】



夏から秋にかけて広葉樹林などの地上に生える。ウラベニホテイシメジ、ホンシメジ、ハタケシメジなどと間違えやすい。

<中毒症状>

摂食後10分~数時間で腹痛、嘔気、嘔吐、下痢などを起こす。

傘に指で押したようなくぼみがあることが多い

齧ると苦みがある

ウラベニホテイシメジ (食) ▶



ドクササコ(猛毒)



秋に笹やぶや竹やぶの地上に生える。ホテイシメジ、アカハツなどと間違えやすい。

<中毒症状>

早い場合は食後6時間程度、遅い場合は1週間程経過してから、手足の先端が赤く腫れ、激痛を伴い、この症状が1ヶ月以上続く。

傷つけると青緑色に変色する

アカハツ (食) ▶



カキシメジ(毒)

濡れると粘性がある

柄の根元が
やや膨らむ



秋に広葉樹林や針葉樹林の地上に生える。チャナメツムタケ、マツタケ、ホンシメジなどと間違えやすい。

<中毒症状>

食後30分～3時間後にあらわれ、頭痛を伴い、嘔吐、下痢、腹痛などの症状を起こす。

テングタケ類(毒)

イボが取れている
場合もある

柄につばがある



夏から秋にかけて針葉樹林や広葉樹林の地上に生える。似ている食用キノコはないが、誤食・中毒例が多い。

<中毒症状>

食後30分程で嘔吐、下痢、腹痛など胃腸消化器の中毒症状が現れる。そのほか、縮瞳、発汗、めまい、けいれん、呼吸困難など神経系の中毒症状を起こす。

ドクツルタケ(猛毒)

柄につばがある

柄がささくれている

根元につばがある



夏から秋にかけて広葉樹林や針葉樹林の地上に生える。毒性が非常に強く、1本で死に至ることもある。

<中毒症状>

食後6～24時間後にコレラ様症状(嘔吐、下痢、腹痛)が現れるが1日で治まり、その後24～72時間で内臓の細胞が破壊され肝臓、腎臓機能障害により死亡する。

カエンタケ(猛毒)

オレンジがかった赤色

硬い肉質

内部は白い



初夏から秋にかけて広葉樹の枯れ木や倒木の根元に生える。ベニナギナタタケと間違えることがある。きわめて強い毒を持ち、触れただけでも皮膚炎を起こす。

<中毒症状>

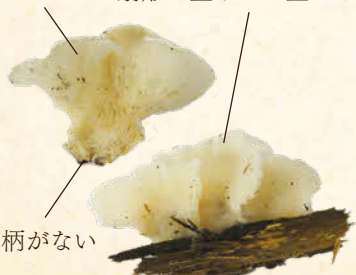
食後30分から、発熱、悪寒、嘔吐、下痢、腹痛、手足のしびれなどの症状を起こす。消化器不全、脳神経障害により死に至ることもある。

スギヒラタケ(猛毒)

白色

扇形で重なって生える

柄がない



晩夏から秋にかけて杉や松の倒木や古株に生える。かつては食用とされてきたが、近年毒性が確認された。

<中毒症状>

腎臓に疾患のある人を中心に急性脳症を起こす。主な症状は意識障害、不随意運動、四肢振戦、下肢脱力と報告され、死亡することもある。



食中毒を防ぐために

- 食用と確実にわかっているものしか採らない・食べない
- 正しい知識、鑑別法は専門家から教えてもらう
- 生で食べず、アク抜きなど適切な処理をして食べる
- 採取する際は有毒なものが混じらないよう十分注意する
- 科学的な根拠のない言い伝えや迷信は信じない

もし症状が出たら.....

- 早急に医療機関を受診する
- 有毒植物やキノコを食べた可能性があることを伝える
- 食べたものの残品があれば持っていく

参考情報

厚生労働省

自然毒のリスクプロファイル



山形県衛生研究所 理化学部

〒990-0031

山形県山形市十日町一丁目 6-6

TEL:023-627-1110

